



がん治療に伴う外見 変化に対する支援を

山田 忠晴（公明党）



問／がん治療による外見の変化に対するケア（ピアランスケア）について、脱毛の場合は医療用ウィッグ（かつら）等、高額でがん患者の負担となっている。がん患者の負担を軽減するために、これらの購入費を補助する制度を創設する考えはないか。

答／医療用ウィッグ等のケア用品の購入に対する助成については、車いすや歩行器等の基本的な生活を維持する上で必要不可欠な補装具とは性質が異なる物品であることから、直ちに支援を行う考えは持ち合わせていない。

雨水貯蔵タンクの設置補助を

問／防災・減災の意識から、敷地内に雨水を貯めて有効活用したり、道路の冠水に対応しようと考えたりする市民も少なくない。雨水貯蔵タンクを設置したい市民に対し、購入及び設置費を補助する制度を創設する考えはないか。



答／雨水貯蔵タンクについては、宅地に降った雨を一時的にタンクに貯めるもので、現在、国や県、市などで進めている「流域治水」における雨水の流出を抑制するため、先行して実施している他自治体の事例を参考に研究していく。



上越市立小中学校の 適正配置と地域の未来

宮崎 朋子（創風）



問／統廃合後の児童の様子は検証しているか。

答／統合前後に実施した保護者と児童へのアンケートでは、学習意欲や友達関係等における不安軽減、学習意欲の向上等の効果が見られた。

問／学校が無くなった地域の意見は聞いているか。長期的には、通学路がなくなることで、道路整備や除雪等への影響を懸念するがどうか。

答／地域への調査等は行っていないが、今後も総合事務所や木田庁舎で丁寧に対応していく。

問／今後、多様な学びの環境が想定される。公立であっても特色ある学校が選ばれ、移住定住にもつながる可能性があると考えるがどうか。

答／基本は、学校間格差のない教育の保証であり、その上で、コミュニティ・スクールや小中一貫教育に取り組んできた。移住定住の観点では、特色ある学校づくりも検討していきたい。

問／文科省では、廃校施設利活用のPRや補助金の活用情報を出している。当市も積極的に取り組むべきではないか。

答／行政目的での活用や地域への一部貸出の例はある。今後は、民間事業者の利活用も積極的に推進すべきと考えている。施設の老朽化等の課題もあるが、地域の意向も聞きながら、全国の事例を参考に取り組んでいく。



旧宇津小学校に立つ二宮尊徳像（牧区）



最近の農業情勢への 市の対応は

武藤 正信（創風）



問／JAえちご上越が示した米の仮渡金について、昨年は大幅に下落したが、今年は3年振りの増額になった。毎年の米価の変動は、農家の経営に即影響するが、市の対応はどうか。

答／この度の仮渡金は増額になったが、安易に令和5年の生産が主食米に傾くことがないよう、今後の中食需要の動向や国の転作助成制度等を注視し、適切に需要に応じた米生産を推進していく。また、農業の根幹を成す水田農業を持続的に発展させるため、引き続き、関係機関・団体と連携し、農業者に的確な需給情報等を提供し、国や県に対し各種対策の維持・強化を働きかけていく。

問／肥料・農薬等の農業資材は、価格が従来の2倍近くになるものがあり、JAでは早期予約申込を促し、品物の調達に苦慮することが懸念されるが、市の対応はどうか。

答／JAからは、早期予約申込を促しているのは、全体量を早めに把握し、より確実に肥料を確保するためと聞いている。市では、令和4年9月定例会において、農業資材高騰の影響の長期化を見据えた県の支援策の活用に向け、補正予算を提案した。また、化学肥料を抑えた環境保全型農業の推進のほか、生産コストの削減を図るスマート農業の推進など、農業経営の体質改善に引き続き取り組んでいく。